

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	政治・経済	単位	2 単
対象コース	情報ビジネス・美術	コース	対象クラス	2 年	5, 6 組
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院)				
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2021 (第一学習社) ニューコンパスノート政治経済2021 (とうほう)				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に閉幕されたのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要箇所を自ら判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。

(2) 家庭

日々の社会事象 (政治・経済の動き) に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近モノとして記憶に残りやすいものである。また、原則として毎日課される復習プリントに取り組む事で知識を確実に定着させて欲しい。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査 年5回実施する。
- (2) 授業への取り組み 授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。基本的な授業態度が守られているか。
- (3) 課題 単元ごとに課す復習プリントと、長期休業中課題。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業内容から、現実問題との関わりを想像することができるか。

(2) 思考・判断

グラフや表を見て、そこから何を読みとることができるか。

(3) 技能・表現








用語を用いて、意図することを表現できるか。

(4) 知識・理解

定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CH
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
1	4	第6章 現代日本の政治 1. 政党の役割 2. 政党政治 3. 選挙制度	・政党の役割と意義について理解させ、55年体制崩壊後の政党の動向を踏まえながら、政党の特色と現状における問題点を学習する。 ・選挙の意義を考え、選挙制度の問題点から改善方法を模索する。	○	○	○	○	
	5	4. 現代民主政治の課題 	・世論の力が民主政治の中心的な役割を担っていることを認識させるとともに、政治的無関心の増大や世論に影響をもつマスメディアの問題点やあり方を学習する。	○	○	○	○	
	6	第7章 国際政治と日本 1. 国際社会と国際法 2. 国際連合と地域統合	・国際社会とは何か、国際政治の目的が何かなど基礎的事項を理解する。 ・国際連合が設立された経緯やその目的を国際連盟との比較を通して理解する。	○	○	○	○	
	7	3. 国際政治の動向 4. 核兵器と軍備管理・軍備縮小 5. 国際社会における日本  	・第二次世界大戦後の東西対立が国際政治の基軸となっていたことを学習するとともに、東西対立が核兵器の開発やその後の国際関係に与えている影響を学習する。また、冷戦後の世界の動きを日本との関わりにも注意して学習する。紛争やテロ行為を客観的に考察し、それらのもたらす影響を理解することで、平和な世界の尊さとその実現のための方策を思案する。	○	○	○	○	
	8	第2編 現代の経済 第1章 経済社会と経済体制 1. 経済活動の基本概念	・生産・流通・消費のサイクルが人間社会の存在条件であることを再認識すると同時に、家計・企業・政府の三つの経済主体のそれぞれの特徴と相互関係を考察する。	○	○	○	○	
	9	2. 経済主体と国民所得・国富 3. 経済成長と景気変動	・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活を支えるフローとストックの意味を理解する。 ・資本主義経済では景気の変動が避けられないこと、またそれに伴う問題について理解する。	○	○	○	○	
	10	4. 市場経済にいたる経済体制の変容 5. 市場経済の機能と限界	・資本主義の仕組みとその特徴を理解する。その発展と変容を、矛盾を克服する試みとして登場した社会主義と比較しながら理解する。 ・市場機構の限界の内容と、政府の果たす役割の重要性を理解させる。	○	○	○	○	
		6. 企業の役割	・資本主義経済における会社企業の役割と、特に株式会社の仕組みについて理解する。	○	○	○	○	
		7. 物価の動き  	・時代によって生活が変化するのに伴い、物価も変化してきたことを理解し、経済の動きを知るきっかけを掴む。実際の物価動向とその原因を考察し、まとめて発表する。	○	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇/
3	11	第2章 金融と財政のしくみ 1. 金融のしくみとはたらき	・金融に関する基礎知識を理解させると同時に、マネーストックと金融政策の意義を把握させる。	○	○	○	○	
	12	2. 財政のしくみとはたらき    	・財政規模の拡大に伴う、国民経済に果たす財政活動の意義と、財政政策の重要性、今日の財政改革の課題を理解する。社会における租税の役割と社会の一員として納税の義務を果たすことの重要性を理解させる。道徳教育の実践。	○	○	○	○	
	1	第3章 日本経済のあゆみと現状 1. 日本経済の変化	・戦前、及び戦後の経済復興から、現代に至るまでの日本経済のあゆみを、それぞれの時期の特徴を踏まえながら理解させる。また、現代の日本経済の実態と抱えている諸課題を、それまでの経緯や背景を含めて理解させると共に、これからの日本経済のあり方の方向性について考えさせる。	○	○	○	○	
	2	2. 中小企業の現状と問題	・日本経済の活動に関して企業という観点でとらえ、大企業の動きについての特徴と課題を理解する。経済基盤を支える中小企業の活動と、それに対する政策について理解する。	○	○	○	○	
	3	3. 環境をめぐる問題 4. 消費者をめぐる問題 5. 農業をめぐる問題   	・高度経済成長の影で、四大公害訴訟を代表例とする産業公害が発生していることを理解させる。公害問題が環境問題へと変化していく過程に気付かせるとともに、その問題に対して、過去から現在まで、私達や日本・世界各国はどのような取り組みをしていたのか理解させる。また人間は多くの他の生物や地球環境そのものと共存していかなければならないことを深く理解させ、道徳的な観点から環境問題を捉えさせる。道徳教育の実施。 ・消費者の権利を守るための制度や機能について理解し、企業や政府、さらには消費者の責任について考えさせる。消費者問題が多様化・複雑化している現在において、消費者一人一人がどのように行動していけばいいのか考えさせる。 ・高度経済成長以降の日本の農業政策の変遷を理解させる地お供に、その政策が取られた背景には何かがあるのか考えさせる。日本の農業を取りまく国際環境や食糧安全保障の観点から日本の農業の問題点を理解させると共に、日本の農業のありべき姿について考えさせる。	○	○	○	○	

【SDGsの各ターゲットについて】
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

